

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名： 名古屋大学医学部附属病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(令和6年5月1日現在)

1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕 吸入薬指導に習熟した複数の薬剤師（アレルギー関係学会、講習会等に参加している）	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	20	7	3
小児科	0	0	0
皮膚科	3	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	1	0	0

2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績 (令和5年度)			今後の予定 (令和6年度)		
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供 講演会等	呼吸器内科	一般市民	日本アレルギー協会東海支部 第30回アレルギー週間市民公開講座 愛知県 アレルギー週間事業開催 2024年2月17日(土曜日)・13:00～15:30 名古屋大学大幸キャンパス内東館4階大講義室 岐阜県 講演 大人の喘息～日頃の付き合い方～ 2024年2月10日(土曜日)・14:00～16:00 Web開催	呼吸器内科	一般市民	アレルギー週間の行事として市民にアレルギーの啓発活動として市民公開講座を継続して開催する。
	呼吸器内科	一般市民	名古屋市 成人ぜん息教室「ぜん息の基礎知識・最新のぜん息治療」 2023年9月4日(月曜日)・14:00～16:00 名古屋市役所西庁舎12階【西12A会議室】	呼吸器内科	一般市民	喘息患者を中心にアレルギーの啓発活動として継続し開催する。
	呼吸器内科	一般市民	愛知県公害保健福祉事業 呼吸教室「気管支ぜん息と治療について～生活のポイント～」 2023年9月7日(木)・14:00～ 講義の時間としては1時間 東海市芸術劇場 2階 会議室	呼吸器内科	一般市民	喘息患者を中心にアレルギーの啓発活動として継続し開催する。
	耳鼻咽喉科	医師	NAGOYA ENT セミナー2023を開催し、「慢性副鼻腔炎の病態多様性に応じた frontline therapy」の講演が行われた。			
	耳鼻咽喉科	医師	鶴舞耳鼻科会にてアレルギー性咳嗽に対する治療法についての説明をおこなった。			
	耳鼻咽喉科	医師	令和5年度名大主催のアレルギー勉強会を開催した。			
	耳鼻咽喉科	医師	名古屋 ENT 塾にて、副鼻腔疾患にたいする講義をおこなった。			

	科						
他	呼吸器内科・薬剤部	気管支喘息患者・ACO患者	吸入指導、PEF指導、アクションプラン説明などの喘息教室	呼吸器内科・薬剤部	気管支喘息患者・ACO患者	吸入指導、PEF指導、アクションプラン説明などの喘息教室	
人材育成	研修会等	呼吸器内科	教育関係者 愛知県アレルギー研修会 アレルギーに備える～教育現場での理解とサポート～ 2023年11月25日(土曜日)・14時～16時 藤田医科大学病院(豊明)会議室 藤田医科大学病院 外来棟6F 6-3 セミナールーム (〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98)	呼吸器内科	一般市民	アレルギーの啓発活動として継続し開催する。	
		耳鼻咽喉科	医師	第6回名古屋市立大学内視鏡下副鼻腔手術解剖実習に参加した			
		耳鼻咽喉科	医師	第5回アレルギー学会東海地方会にて好酸球性副鼻腔炎について発表し、呼吸器内科医と意見交換をおこなった。			
		皮膚科	医師	第122回日本皮膚科学会総会にて、先天性魚鱗癬の研究で解き明かす皮膚バリア、という演題の教育講演を行った。			
		皮膚科	医師	東尾張アレルギー疾患セミナー2023にて、アトピー性皮膚炎と遺伝性皮膚疾患の2型炎症を制御する、という演題名の講演を行った。			
		皮膚科	医師	第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会で、角層脂質バリアと炎症のメカニズムについての教育講演を行った。			
他	アレルギー疾患治療チーム	病院教職員	アレルギー研修会(オンライン研修):①アレルギーのインシデントについて、②アナフィラキシー	アレルギー疾患治療チーム	病院教職員	アレルギー研修会(オンライン研修)開催予定	
助言指導	呼吸器内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	呼吸器内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	
	呼吸器内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	呼吸器内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	

3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績(令和4年度)	今後の予定(令和5年度)
診療	<呼吸器内科> ・気管支喘息、ABPA、ACO患者診療(約400人) ・重症気管支喘息患者診療(誘発喀痰による気道炎症評価など多面的な評価を行っている。)	<呼吸器内科> 継続
	<耳鼻咽喉科> アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の生物学的製剤を含む保存的治療とともに、難治例には内視	<耳鼻咽喉科> 継続

	鏡下鼻副鼻腔手術を施行した。	
	<皮膚科> アトピー性皮膚炎診療 (200 人)	<皮膚科> 継続
研究	<p><呼吸器内科></p> <p>・COVID-19 流行下における気管支喘息・COPD 患者の吸入アドヒアランスについてアンケート調査を行った。</p> <p><u>原著論文</u></p> <ol style="list-style-type: none"> Hayashi H, Fukutomi Y, Mitsui C, Kajiwara K, Watai K, Tomita Y, Kamide Y, Tsuburai T, Sekiya K, Ishii M, Hasegawa Y, Taniguchi M. Omalizumab ameliorates extrapulmonary symptoms in patients with aspirin-exacerbated respiratory disease. <i>J Allergy Clin Immunol.</i> 2023 Jun;151(6):1667-1672.e2. doi: 10.1016/j.jaci.2023.03.014. Fukutani E, Wakahara K, Nakamura S, Yokoi E, Yoshimi A, Miyazaki M, Nakamura M, Shindo Y, Sakamoto K, Okachi S, Tanaka I, Hamajima N, Noda Y, Hashimoto N, Ishii M. Inhalation adherence for asthma and COPD improved during the COVID-19 pandemic: a questionnaire survey at a university hospital in Japan. <i>J Asthma.</i> 2023 Nov;60(11):2002-2013. doi: 10.1080/02770903.2023.2209173. Kenta Horie, Muhammad Salman Al Farisi, Yoshihiro Hasegawa, Miyoko Matsushima, Tsutomu Kawabe, Mitsuhiro Shikida. Investigation of Calibration Methodology Using Mouth Airflow for Wearable Sensor Toward Quantitative Respiration Monitoring. <i>IEEJ TRANSACTIONS ON ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING.</i> 19 (5) 2024 DOI: 10.1002/tee.24045 Aoi Miyawaki, Muhammad Salman Al Farisi, Yoshihiro Hasegawa, Miyoko Matsushima, Tsutomu Kawabe, Mitsuhiro Shikida. Pitot Tube Sensor Probe System for Simultaneous Airflow and Pressure Measurement of Expiration Inside Pulmonary Airway. <i>IEEJ TRANSACTIONS ON ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING.</i> 19 (5) 2024 DOI: 10.1002/tee.24039 Matsushima M, Nose H, Tsuzuki H, Takekoshi M, Kusatsugu Y, Taniguchi H, Ohdachi T, Hashimoto N, Sato M, Kawabe T. Decrease in cholesterol in the cell membrane is essential for Nrf2 activation by quercetin. <i>J Nut Biochem.</i> 116: 109329, 2023 DOI: 10.1016/j.jnutbio.2023.109329 <p><u>学会発表 (国際学会)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> R. Nagayama, M. S. Al Farisi, Y. Hasegawa, M. Matsushima, T. Kawabe, M. Shikida, Tracheal Intubation Tube with Embedded Flow Sensor for Respiration and Heartbeat Monitoring During 	<p><呼吸器内科></p> <p>アレルギー、またその基礎となる免疫学関連の研究を英文雑誌や国内外の学会で報告する。</p>

Canine Tartar Removal, The 36th International Microprocesses and Nanotechnology Conference (MNC 2023), Sapporo, Japan, 14–17 November 2023, p. 17P-1-61.

7. A. Miyawaki, M. S. Al Farisi, Y. Hasegawa, M. Matsushima, T. Kawabe, M. Shikida, Simultaneous airflow and pressure measurements based on pitot tube for evaluation of expired air inside lung airway, The 22th International Conference on Solid-State Sensors Actuators and Microsystems (Transducers), Kyoto, Japan, 25–29 June 2023, pp. 1888–1891.

学会発表（国内学会）

8. 近藤 友喜, 阪本 考司, 長谷 哲成, 若原 恵子, 石井 誠. 外科的肺生検を行い診断した抗 KU 抗体陽性間質性肺炎の一例. **第5回日本アレルギー学会東海地方会**, 2024.3.9 (2024.3.9) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス (愛知県)
9. 阪本 考司, 加藤 さや佳, 佐藤 智則, 小林 朋子, 進藤 有一郎, 岩間 信太郎, 有馬 寛, 石井 誠. 免疫チェックポイント阻害薬投与による潜在性抗 MDA-5 抗体症候群の顕在化が疑われた一例. **第5回日本アレルギー学会東海地方会**, 2024.3.9 (2024.3.9) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス (愛知県)
10. 大槻 遼, 竹山 佳宏, 牧野 靖, 森瀬 昌宏, 若原 恵子, 石井 誠. オマリズマブは不応性であったがメポリズマブが有効であった喘息合併慢性好酸球性肺炎の1例. **第5回日本アレルギー学会東海地方会**, 2024.3.9 (2024.3.9) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス (愛知県)
11. 松田彩巴, 松島充代子, 林 風月, 都築 光, 安藤梓乃, 河島妃和, 高木清楓, 吉田七海, 川部 勤. アトピー性皮膚炎モデルマウスにおけるリンパ球の分化・増殖の解析. **第5回日本アレルギー学会東海地方会**, 2024.3.9 (2024.3.9) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス (愛知県)
12. 河島妃和, 松島充代子, 小原萌恵子, 都築 光, 松田柚希, 高木清楓, 林 風月, 吉田七海, 川部 勤. アレルギーの症状誘発能に関わるアレルゲンエピトープの解析. **第5回日本アレルギー学会東海地方会**, 2024.3.9 (2024.3.9) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス (愛知県)
13. Fuzuki Hayashi, Miyoko Matsushima, Nodoka Shimasaki, Hinata Taniguchi, Hina Kawashima, Sayaka Takagi, Nanami Yoshida, Tsutomu Kawabe. Investigation on basic lymphocyte profile in NC/Nga mice. **第52回日本免疫学会**, 2024.1.18 (2024.1.17-19) 幕張メッセ (千葉県)
14. Hina Kawashima, Miyoko Matsushima, Nodoka Shimasaki, Hinata Taniguchi, Sayaka Takagi, Fuzuki Hayashi, Nanami Yoshida, Tsutomu Kawabe. Estimation of allergen-specific peptides interfering mast cell degranulation. **第52回日本免疫学会**, 2024.1.17 (2024.1.17-19) 幕張メッセ (千葉県)
15. 安藤梓乃, 松島充代子, 林 風月, 松田彩巴, 都築 光, 谷口ひなた, 高木清楓, 大西 花,

<p>川部 勤. 細胞膜を經由する防御機構の発現におけるコレステロールの重要性についての検討. 第17回日本臨床検査学教育学会学術大会, 2023.8.24 (2023.8.23-24)天理大学 杣之内キャンパス (奈良県)</p> <p>河島妃和、松島充代子、松田柚希、小原萌恵子、都築 光、高木清楓、林 風月、吉田七海、川部 勤. アミノ酸からなるペプチド群を用いた症状発現に関わるエピトープの解析. 第17回日本臨床検査学教育学会学術大会, 2023.8.23 (2023.8.23-24)天理大学 杣之内キャンパス (奈良県)</p>	
<p><皮膚科> 原著論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Treatment of Severe Dermatitis, Multiple Allergies, and Metabolic Wasting With Dupilumab. Koike Y, Takeichi T, Ishii N, Waseda T, Murayama N, Akiyama M, Murota H. JAMA Dermatol. 2023 Sep 1;159(9):1009-1011. doi: 10.1001/jamadermatol.2023.1417. 2. Allergen-specific IgG4 increase in atopic dermatitis with long-term dupilumab use. Ogawa-Momohara M, Muro Y, Murase C, Taki T, Tanahashi K, Yamashita Y, Koizumi H, Fukaura R, Takeichi T, Akiyama M. Br J Dermatol. 2023 Sep 15;189(4):472-474. doi: 10.1093/bjd/ljad207. 3. The ability of biomarkers to assess the severity of atopic dermatitis. Nakahara T, Onozuka D, Nunomura S, Saeki H, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Kido-Nakahara M, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiujii Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Fukushima-Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Katoh N, Furue M, Izuhara K. J Allergy Clin Immunol Glob. 2023 Sep 27;3(1):100175. doi: 10.1016/j.jacig.2023.100175. 4. Correlation of serum allergen-specific IgE with total serum IgE and IgE specific to other allergens in Atopic dermatitis patients. Akashi N, Ogawa-Momohara M, Taki T, Fukaura R, Wakahara K, Kamiya S, Yamashita Y, Koizumi H, Takeichi T, Muro Y, Akiyama M. J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Feb 19. doi: 10.1111/jdv.19872. <p>国内学会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平林 仁希, 天野 智仁, 三木 寿美, 武市 拓也, 秋山 真志, 村上 誠, 山本 圭. sPLA2-IIF/P-LPE 経路はアトピー性皮膚炎を制御する. 第 65 回日本脂質生化学会, (2023.6.8-9) KKR ホテル熊本 (熊本県) 口頭 2. 桃原 真理子, 室 慶直, 村瀬 千晶, 滝 奉樹, 棚橋 華奈, 山下 雄太, 小泉 遼, 深浦 遼, 武市 拓也, 秋山 真志. デュピルマブの長期使用によるアトピー性皮膚炎におけるアレルゲン特異的 IgG4 の増加. 第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2023.12.8 (2023.12.8-10) 現地開催と Live 配信による、ハイブリッド開催グラウンドニッコー東京ベイ 舞浜 (千葉県) 	

	口頭	
--	----	--

4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

<呼吸器内科>
医学系研究科総合保健学専攻の川部 勤が第 5 回日本アレルギー学会東海地方会を会長として開催した。